北海商科大学　講義概要（シラバス）

2026年度

科目名	通商実務論Ⅱ	科目コード	1254	単位数	2
担当者名	早川　淑人	開講セメスター	第5セメスター	開講年次	3年次
授業の方法	講義	到達目標	C,G	実務経験	無
ナンバリング	MAq507	※DP（ディプロマポリシー）と到達目標の関連性については、カリキュラムマップ参照			

授業のねらい

現代社会で貿易を理解するには購買手順だけではなく、人種・宗教・価値観・歴史・慣習・気候・金融・リスクマネジメントなども学ぶ必要があります。日々変化する社会背景や政治を理解することも、貿易を学ぶには不可欠です。テキストだけではなく新聞記事を多用し、C級試験合格を目指します。

到達目標

C級試験対策だけではなく、社会で求められる能力である想像力（創造力）、調整力、分析力、話力など、他者・組織との合意形成能力を身に付けるとともに、思考力を養うことを目標とします。

授業内容

1週目 ガイダンス（講義の進め方）・日本の貿易構造と国際社会
2週目 マーケティング戦略と契約上の基礎知識
3週目 インコタームズの基礎知識と輸送手段
4週目 消費者保護と企業倫理
5週目 外国為替の決済方法
6週目 輸出手続きの手順と関係法令①
7週目 輸入手続きの手順と関係法令①
8週目 輸入手続きの手順と関係法令②
9週目 貿易マーケティング・保険
10週目 英文ビジネスレターの基本表現
11週目 国際情勢分析演習
12週目 貿易事例研究（ディベート結果テスト）
13週目 過去問題テスト・解説①
14週目 貿易実務論総まとめ講義
15週目 貿易実務演習①・セメスター末テスト
16週目 通商実務論最終まとめ講義

準備学修（予習・復習）の具体的な内容及びそれに必要な時間

講義予定を参考に事前に1時間はテキストを読み、新聞（できれば日本経済新聞）の経済面・国際面には毎日目を通してください。また講義後は、テキストや配布資料に再度立ち戻り、各種手続の全体像をイメージしながら週3時間以上は復習及び問題演習に取り組んでください。

成績評価の方法・基準

4項目(計100点)を基準に評定する。①小テスト:10×3回＝30点(評価点＝実得点×10%換算･小数点以下切上)、②末テスト:30点(評価点＝実得点×30%換算･小数点以下切上)、③ミニテスト:30点(評価点＝（実得点総合計)÷実施回数×30%･小数点以下切上)、④課題:10点×1回＝10点
なお、試験の半数はテキスト以外からの論述式試験です。日常的に新聞を読んでいない学生は、政治面・国際面・消費者物価面・金融面を読み、世の中の流れがわかるようにしておくこと。試験は暗記だけではなく、国際情勢を考えて解く問題を多用します。

履修上の留意点

通商実務論Ⅰを同時に履修しなければ、検定試験の全範囲は網羅できないため、必ず同時に履修してください。また、毎回必ず《２B以上の鉛筆》（シャープペンシル可）もしくは《黒のボールペン》を持参のこと。
【重要】日常的に新聞を読んでいない学生は、確実に単位は取れません。

課題に対するフィードバックの方法

講義時に実施した各テストやレポート等の提出物は、早ければ次回の講義内にてその得点のフィードバックを行います。各提出物の返却は行いません。

テキスト

「最新貿易実務ベーシックマニュアル(改訂4版)」日本貿易実務検定協会編･MHJ出版￥4,510(税込)
上記の他、追加のテキストは講義内で指定します。
※本テキストは、「通商実務論Ⅰ」と同じテキストを使用します。

参考書

「お辞儀とすり足はなぜ笑われる」内海義雄著　日本経済新聞社￥935（税込）
※当参考書は、絶版の可能性が高いため、講義内にて【電子書籍購入】の指示を行います。
※当参考書は、「通商実務論Ⅰ」と同じ。

更新日付

2026/01/27 11:54